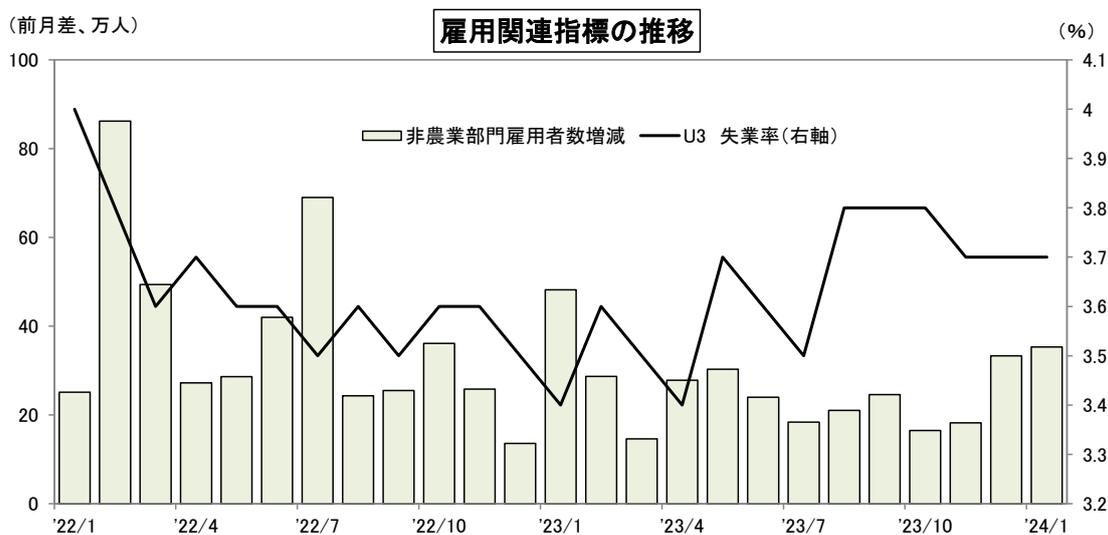


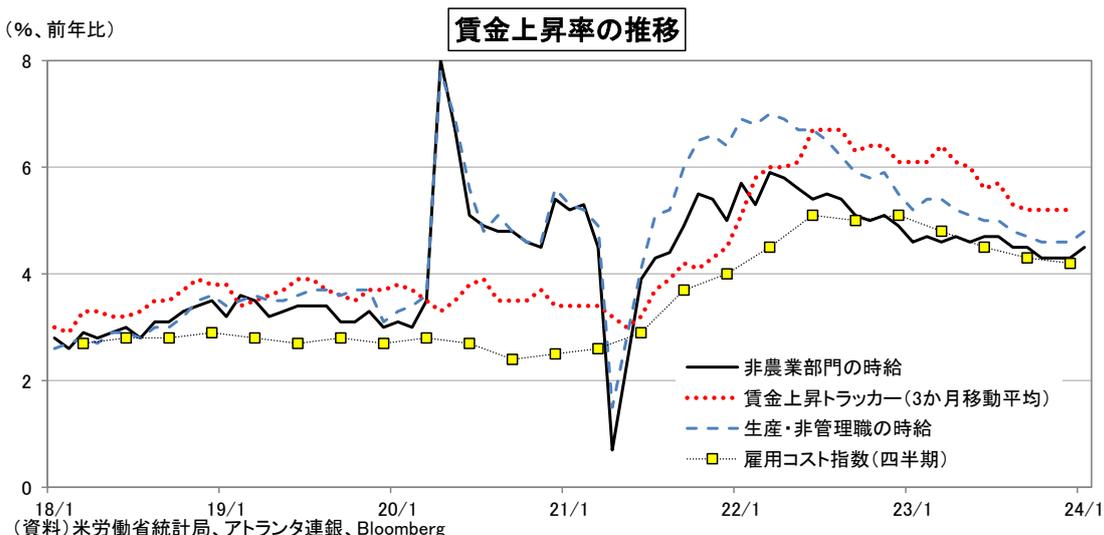
(米国)労働市場の需給緩和が一旦停止

1月の雇用統計を確認すると、非農業部門雇用者数は前月から35.3万人増(事業所調査)と雇用増加ペースは加速し、失業率は変わらずの3.7%となった。12月の非農業部門雇用者数が11.7万人と大幅に上方修正されたこともあり、足元3か月平均は28.9万人増とかなり速いペースで雇用の拡大が続いている。



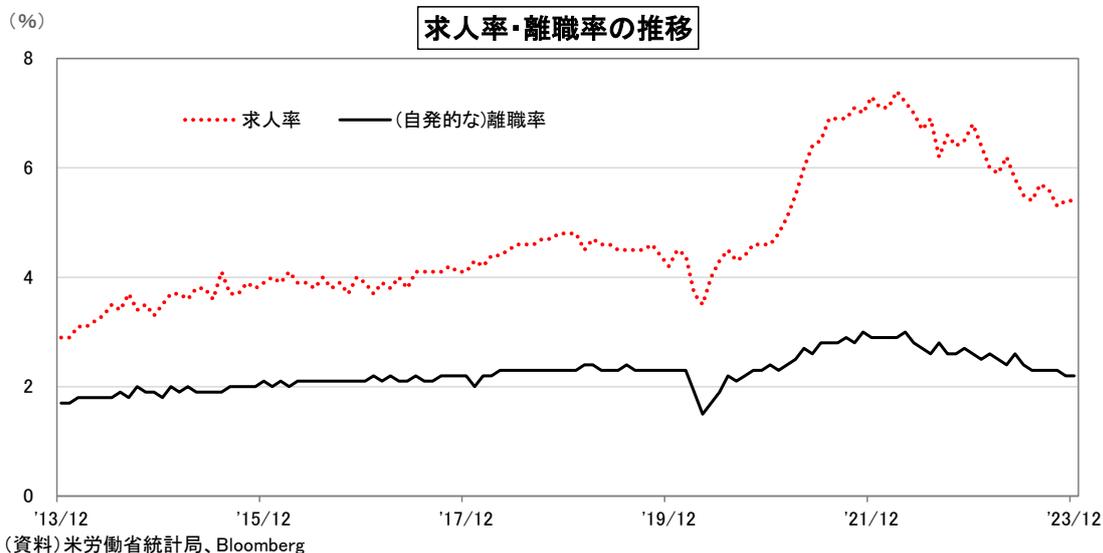
(資料)米労働省、米議会予算局、Bloombergより農中総研作成

1月の平均時給は前年比4.5%(前月比0.6%)、生産・非管理職の時給は同4.8%(同0.4%)の上昇といずれも再加速した。

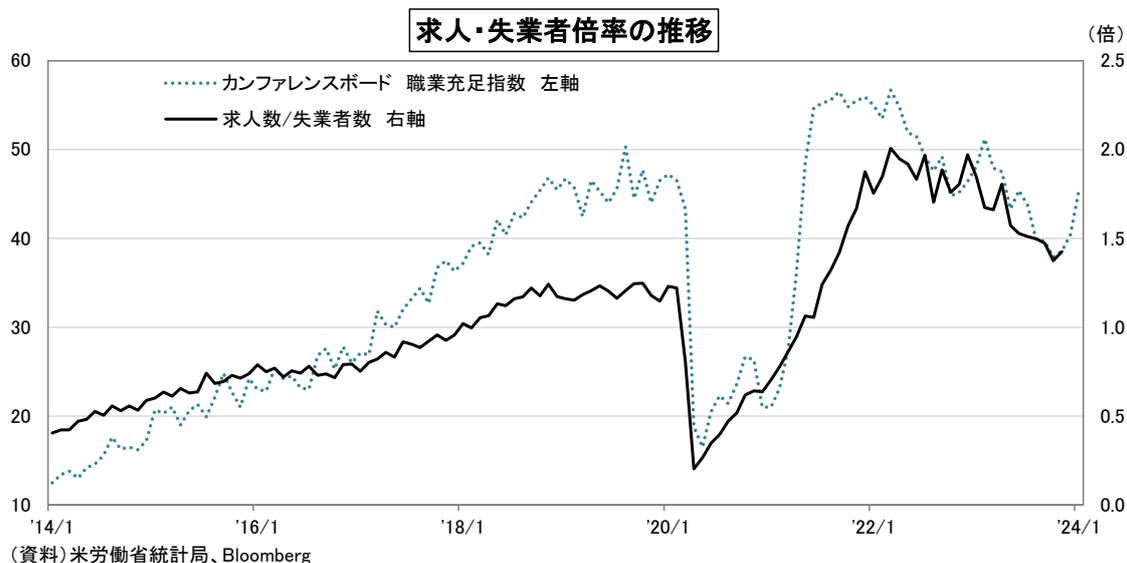


(資料)米労働省統計局、アトランタ連銀、Bloomberg

12月の求人労働異動調査によると、求人数は前月から小幅に増加し902.6万件となり、求人率(=求人数÷(求人数+雇用者数))と自発的な離職率はいずれも変わらずの5.4%、2.2%となった。

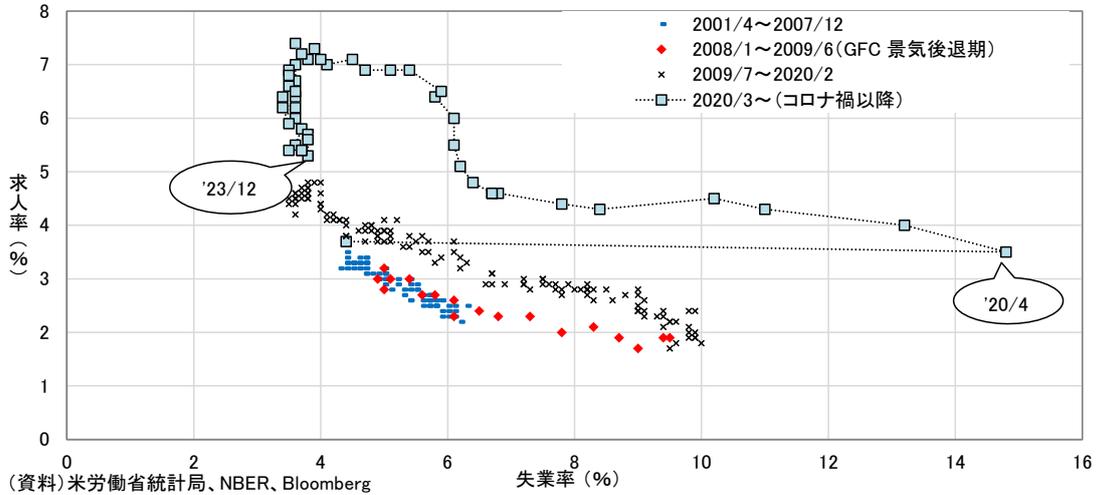


求人数と失業者数の比率をみると、12月は職を選ばなければ1人の失業者に対して1.43倍の求人が確認された。12月は小幅な反発となったが同比率は徐々に低下している。



足元のUV曲線の動きをみると、現段階ではUV曲線はシフトしておらず、失業率の大幅な上昇を避けつつ求人率が低下する動きが続いている。求人率の低下に対して、失業率が4%より少し低いところでほぼ固定されている状態となっている。

UV曲線の推移



12月の求人労働異動調査と1月の雇用統計は、労働市場の需給緩和が一旦停止した印象を与える内容となった。FRBにとっては、金融引き締めを長期化し利下げをより慎重に判断する必要性を示す材料となっただろう。こうした見方を背景に、2日の米10年債は前日比14bp上昇の4.02%となった。また、FF金利先物では、24年の利下げ織り込みがやや後退し、利下げ開始は6~7月へと後ずれした。なお筆者は引き続き6月FOMCでの利下げ開始を予想しているものの、1月雇用統計のような予想外に堅調な経済指標が多ければ、利下げ開始は後ずれすることとなるだろう。

FF金利先物の推移

